

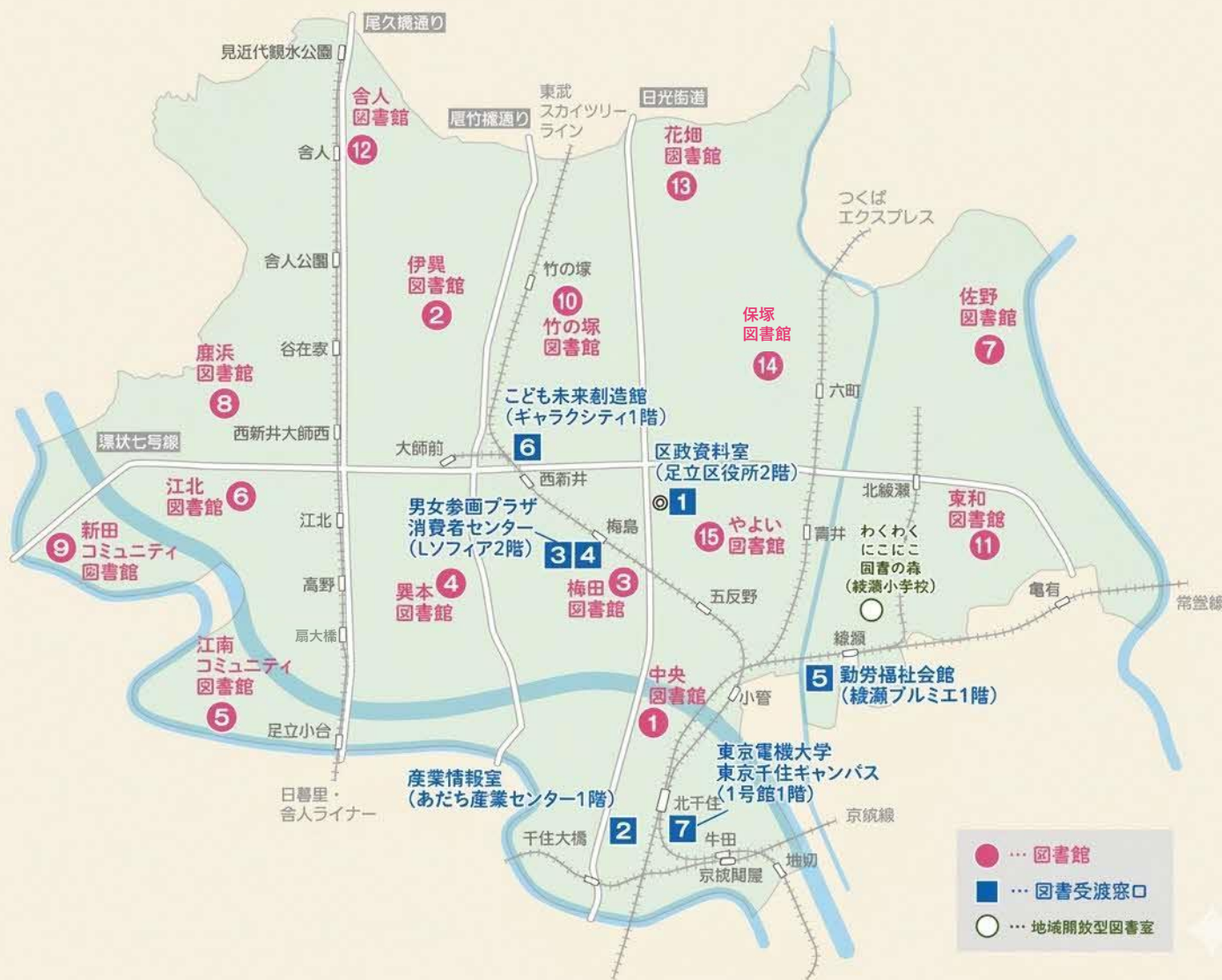
足立区立中央図書館リニューアル



本を読む人も読まない人も訪れる、
新たな居場所としての図書館へ

01 区立図書館の現状

01 図書館及び図書受渡窓口を 全区的に配置



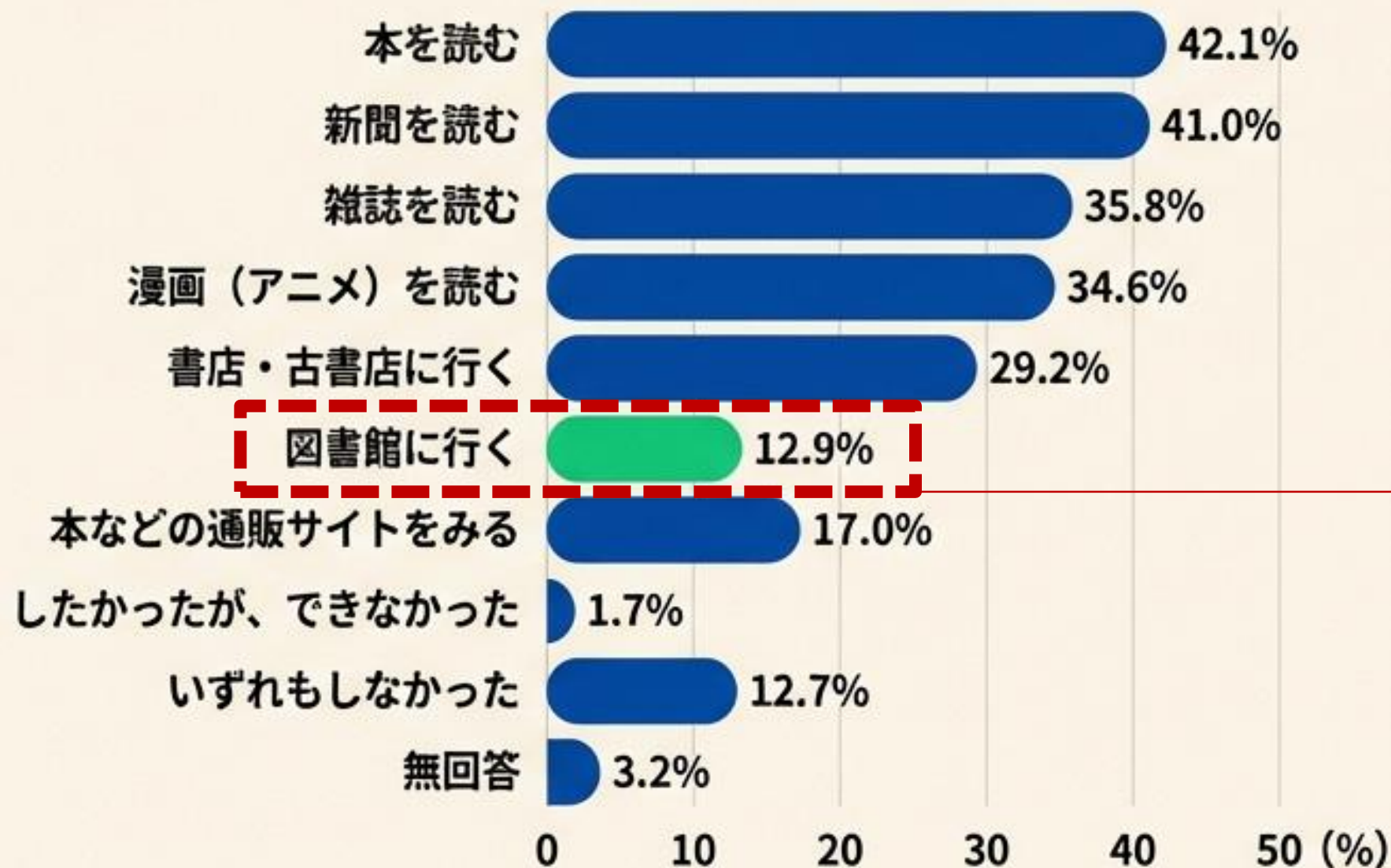
図書館 **15館**
(23区中3位)

1館あたりの人口：
45,950.5人
(23区中15位) ※R6統計データ

図書受渡窓口 **7館**

01 一方で、直近1か月で図書館に行った区民は約8人に1人に留まっている

読書に関わる行動



約13%

※ 令和6年度「第53回 足立区政に関する世論調査」結果から

01 「足立区基本構想」を踏まえ、従来の 枠から**一步踏み出す**図書館の必要性

区立図書館の使命（ミッション）

足立での暮らしや学びが 楽しくなる図書館

- 1 暮らしや仕事、学習、趣味など、生活のさまざまな場面において、区民に寄り添うこと
- 2 本と出会う喜びや先人の知を学ぶ楽しさ、多様な生き方を知る機会を提供すること
- 3 暮らしの活力を得たり、豊かな地域文化を生み出したりする場となること



01 「数はあるが使われていない」という 現状を乗り越えるために

／本日のテーマ／

既存の図書館の魅力を高める

中央図書館の リニューアル

地域図書館に横展開



／今後はさらに／

図書館とは異なる場の創出

まちなかで本と触れ合える場

「点」から「面」への拡大

02 中央図書館リニューアルについて

02 「本を読む人も読まない人も訪れ、 区民でにぎわう図書館」をめざして

本を読まない人もターゲットにした居場所づくり

なぜ「本を読まない人」にも図書館を訪れてほしいのか？

- ▶ 図書館が区民一人ひとりにとっての居場所（サードプレイス）となり
- ▶ そのような居場所があることが、一人ひとりのウェルビーイングの向上に資する

図書館は居場所としての大きな可能性を持っている

02 図書館の要望者は勉強ができるスペース、 人との交流や居場所を求めている

アンケート結果

考察

子育て中の母親層が
比較的多い

子どもの教育という視点で、
勉強ができる多目的スペース
を求める意見と考えられる

60歳代以上の高齢者
の割合は20.0%

- 家族構成は「配偶者のみ」
「一人暮らし」が約65%
- 公共施設の次に「人が集う
交流施設」を求めている

人との交流や居場所を求めて
「図書館」と回答していると
考えられる

02 リニューアルのイメージ

リニューアルで**目指す姿**

本を読む人も
読まない人も
来館する図書館

- ▶ 一人でもグループでも、**それぞれに快適な居場所**がある
- ▶ 目当ての本を探すだけでなく、**思いがけない本とも出会える**

現状

本を読まない人でも来館したくなるような魅力がない

「にぎやか」
「静か」のゾーニングがされていない

本を読みたくなるための演出が乏しい

目指す姿を実現するための**具体策**

1 居心地の良い**閲覧席**

2 誰もが居心地よく過ごせるための**ゾーニング**

3 魅力的な**書架**

03 リニューアルを推進する人材

03 ハードのリニューアルではあるが、 大事なものは「人」

建物が新しくなるだけでは「良い居場所」とはならない

▶▶ ソフトとハードの両面から新しい姿を目指していく

令和6年4月

図書館サービスデザイン
担当課 を新設

他自治体の図書館での勤務経験が豊富な人材を担当課長、担当係長として採用し、足立区の図書館に新たな風を吹き込む

令和8年4月

図書館ナビゲーター を配置

司書資格を必須とせず、学芸員、保育士などの資格や企画・広報業務の経験などを活かし、新たなサービスを提供

04 今後のスケジュール

04 中央図書館のリニューアルオープンは 令和10年度を予定

令和8年度中 基本構想・基本計画策定

令和9年6月まで 設計完了

ワークショップ等を通じて、
皆様からの意見を伺う予定です。

～令和10年度中
工事完了
リニューアルオープン

※ 工事期間中、1階は約1年、2・3階も2～3か月程度休館となる見込み